

TEAM TARO

Coca-Cola 2022 Suzuka 8 hours

SANMEI Team TARO PLUSONE TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

EWC
44



三明電気工事



Fujimoto Electric Industry



KAWAFU
TECHNO

2022 FIM 世界耐久選手権 第3戦

“コカ・コーラ” 鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 第43回大会

三重県・鈴鹿サーキット (1周=5.821km)
クラス：EWC マシン：BMW M1000RR タイヤ：BRIDGESTONE
#44 ライダー：関口太郎 / 奥田教介 / 佐藤太紀

2022年8月4日(木)：公式車検
2022年8月5日(金)：公式予選
2022年8月6日(土)：TOP10 トライアル
2022年8月7日(日)：8時間耐久 決勝

予選：23番手 (best：2分10秒083 average：2分10秒499)
決勝：14位 (204周)

観客動員数：44,000人 (4日間合計)

YONE MOTORS  <https://www.yonemotors.jp>

ファミリー ロック
旅籠屋  はなご

 Rider's Garage

 府中不動産

 Burgundy
Auto Paint & Bodywork Specialist



TARO Team TARO 鈴鹿8耐初参戦！ BMW勢、最上位でフィニッシュ！！



新型コロナウイルスの影響を受け2020年、2021年と中止となっていた鈴鹿8耐が、3年振りに開催された。関口は、鈴鹿8耐の経験はあるが、自らのチーム、SANMEI Team TARO PLUSONEで初めてエントリー。きっかけとなったのは、2019年にセパン8耐に参戦したことだった。全日本JSB1000クラスを戦うようになり、鈴鹿8耐に参戦したい思いもあった。今シーズンから走らせているBMW M1000RRの理解度を高める目的もあり参戦を決めていた。もちろん、メインスポンサーの三井電気工事さんを始め、支えてくださっている多くの皆さんの後押しがあってこそ実現した鈴鹿8耐参戦となっていた。このスタンスに共感してくれた奥田教介と佐藤太紀を起用。2人とも鈴鹿8耐の経験があり、関口の意向を理解して、このプロジェクトに参加してくれた。6月、7月の事前テストも、チームのスタンスで最初の段階からマシンは、鈴鹿8耐仕様ではなかったが、奥田と佐藤に慣れてもらうことを優先に、徐々に準備を進めていった。



今年は、火曜、水曜にテスト走行が設けられ、例年になく長いレースウィークとなっていた。この火曜、水曜は特に厳しい暑さとなったが、チームのピット裏には、三井電気工事さんが、立派なユニットハウスを建ててくれたこともあり快適に過ごすことができていた。



木曜日は公式車検、フリーイングなどのみで走行は中休みとなり、金曜日の公式予選を迎える。まずはライダーブルーの関口がアタックし2分10秒083をマークし19番手につけると、続くライダーイエローの奥田も2分10秒914と好タイムで続く。しかしライダーレッドのセッションが始まると雨が西コースから降り始めてしまう。これを見た他のライダーは、ピットに戻るが、佐藤は、そのままコースに止まり、基準タイムをクリア。ライダーレッドの2回目のセッションも雨に見舞われただけに、この判断は結果的にナイスプレーだった。関口と奥田のベストタイムのアベレージは2分10秒499となり、23番手グリッドからスタートすることになる。

決勝に向けて、予選後のナイトセッションで足回りを変更。ウエットコンディションとなっていたが、フィーリングはよかったため、いい方向に進んでいることを確認できていた。



決勝日は、朝方こそ雲が多かったが、スタート時刻が近づくと晴れ間が広がり気温も上昇していった。予定通り11時30分にレースは始まった。スタートライダーは奥田が担当。2周目に、いきなりアクシデントが発生しセーフティカーが入るが、リスタート後も、落ち着いた走り関口にバトンをつなぐ。関口もマージンをとりながらも、2分11秒台でラップを重ねていく。続く佐藤の際には再びセーフティカーが入る場

面もあったが、慎重にリスタートし周回を重ねていく。夕方に入り路面温度も下がってくると、関口と奥田はペースを上げる。奥田は、ソフト目のタイヤを履いたこともあり、チームのベストラップをマーク。レースも終盤に入ると、順調にポジションを上げていった。そして3度目のセーフティカーが入った後、佐藤がピットに戻ると関口が最後のスティントを担当。204周を走り切り14位でチェッカーフラッグを受けた。BMW勢では最上位であり、ストリート仕様のエンジンで、ここまで走れることを証明する結果となった。同時にBMW M1000RRのポテンシャルの高さを実感した瞬間でもあった。

■関口太郎コメント

「まずは何事もなく無事に終われたことを感謝しています。関わってくださった全員が最高の仕事をしてくださいましたし、2人のライダーも、今回の鈴鹿8耐を通して成長してくれました。これも支えてくださった三井電気工事さんを始めスポンサーの皆さまのおかげです。8耐初参戦となったTeam TAROですが、BMW勢の中では最上位、完全なるプライベーターとして上出来だったと思います。教介と太紀に乗ってもらい、2人とも乗りやすいと言ってくれたので、自分のやっていることが正しいことも確認できました。この経験を糧に、全日本シーズン後半戦に生かしていきます。引き続き応援よろしくお願いいたします」

■奥田教介コメント

「すごく居心地のいい環境で走らせていただき、関口選手を始めチームの皆さんに感謝申し上げます。事前テストからノビノビと決勝レースに向けてペースを上げていけたのは、よかったですし、乗りやすいバイクを作ってくくださったので、決勝で自己ベストを出すことができました。いい流れでレースを終えることができたので、よかったですと思います」

■佐藤太紀コメント

「14位という結果でゴールできたのは、関口選手を始めチームの皆さん、ブリヂストンを始め関わってくださったすべての皆さまのおかげです。本当に、ありがとうございました。すばらしい環境でレースができましたし、絶対に転ばずにマシンを届けることを第一に考え、最後のスティントで自己ベストを更新できたので充実したレースになりました。この経験を今後のレース活動やスクールに生かしていきたいと思います」



TARO

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com